

# 見守り・声かけ活動協力員研修会

## 「災害と高齢者」

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

2025年3月4日

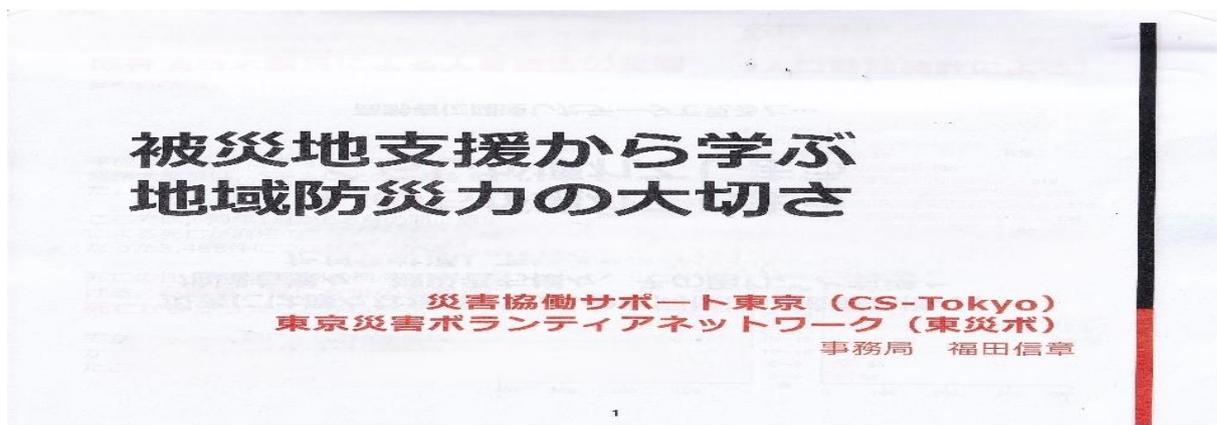
東大和市社会福祉協議会主催による、見守り・声かけ活動協力員研修会「災害と高齢者」が、中央公民館ホールで開催されました。100名を超える参加者で、質疑応答もあり、熱気ある研修会となりました。

### ★講演



講師  
災害協働サポート東京  
事務局長 福田信章 氏

### 【講演内容抜粋】



(どの災害でも高齢者(60代以上)の人的被害が多い)

阪神淡路大震災

阪神淡路大震災による人身被害の実態 (人口動態統計による)

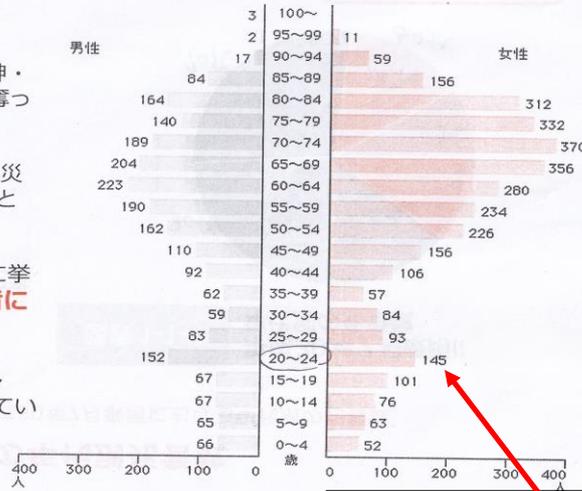
厚生省大臣官房統計情報部人口動態統計課・発表 (『国民衛生の動向』; 厚生統計協会、1996年)

平成7年1月17日未明に発生した阪神・淡路大震災は、5千人以上の人命を奪った。

ここでは、同年1月から6月の間に震災による死亡が直接の死因(原死因)となった5,488件について述べる。

死亡の性・年齢階級別の構成を図1に挙げる。**高齢者、特に女性の高齢者に死亡が多かった**ことがわかる。

男女とも20~24歳に比較的の死者が多かったのは、被災地に大学が集中していたことによるものと考えられる。



20~24歳が多いのは、大学生が学生寮で被災。

平成30年7月豪雨水害

平成30年7月豪雨水害での年代別死者数

令和2年版 防災白書 | 図表1-1-4 平成30年7月豪雨における年代別の死者数

平成30年7月豪雨により、河川の氾濫、浸水害、土砂災害等が発生。

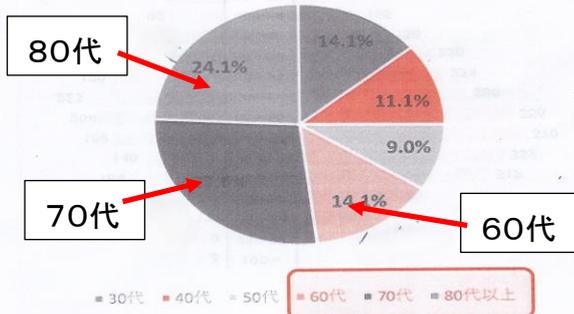
死者237名  
 広島県115名  
 岡山県66名  
 愛媛県31名  
 他府県25名

行方不明者8名

重軽傷者は432名

(消防庁情報、平成31年1月9日現在)

図表 1-1-4 平成30年7月豪雨における年代別の死者数



出典：平成30年7月豪雨による水害・土砂災害からの避難に関する第3回ワーキンググループ資料より内閣府作成

能登半島地震

石川県の死者は70代以上が6割を占めた。

どの災害でも死者の年代別を見てみると  
高齢者（60代以上）が半数以上を占めています

## 災害が起こると 高齢者が死んでしまう

どの災害の関連死を見てみると  
やはり高齢者（60代以上）が多数を占めています

## 災害が起きた後も 高齢者が死んでしまう

(豪雨・土砂災害の場合)

### 豪雨・土砂災害の場合一

まさか、こんなに雨が降るなんて  
まさか、土砂崩れが起きるなんて  
まさか、家が壊れるなんて  
まさか、ケガをしてしまうなんて  
まさか、死んでしまうなんて

知らなかった/経験がなかった/想定していなかった…  
それが被災者の方々の本音です

多くの被災者が共通して語る言葉は「まさか」。

### 「まさか」からいのちを守るために

#### 地域の危険度を知ること

⇒可能であれば自分の危険度/家族の危険度も知っておく

#### 経験則を過信しないこと

⇒TVでも言ってくれます

「これまでに経験したことのない台風（大雨）」と！

#### 早めの行動（避難）を心がけること

⇒晴れてるうちに。動けるうちに。空振りを怖がらない。

そして、可能であれば、ご近所の方に避難することを伝えて、避難先が違ってもしっかりと一緒のタイミングで避難して。

## (水害の場合)

### いのちを守る活動 (水害の場合)

- いのちを守るためには**危険な場所から離れる**ことが最も確実。
- つまり、大雨を考えた場合、**大雨が来る前に避難**しておく
- 周りの人に、**早めの避難の重要性**について理解してもらうことが重要
- **避難するためのトリガー**が何なのか、それを探ることが重要です

### 避難のトリガーとは—

こんな感じで使われてます「…住民自らの行動（避難準備や避難開始）のためのトリガーとなる情報を明確化し、これらのトリガー情報について適切なタイミングで発信する。…（国土交通省）」

要するに—**避難のきっかけ**という意味です。

ところで…

皆さんはどうなったら避難しますか？

- 防災無線（行政情報）？
- TVからの情報？
- 近所の声かけ？
- 家族からの声かけ？



避難のトリガー（きっかけ）を自分で、家族で、地域で考えておく

避難のきっかけを得られれば、  
早めの避難が可能になるはず！

### 早めの避難のポイント

- ① どのタイミングで
- ② どこに避難するか
- ③ 何を持っていか

いずれも、人や家族や地域で違います。  
自分で考えてみる  
家族で考えてみる  
地域で考えてみる  
このことが、実はとても大事です。

## (地震の場合)

### 地震災害に向けた準備

**地域の危険度を知る**  
**自宅の耐震性を知る**  
**命を守る手段を知る**

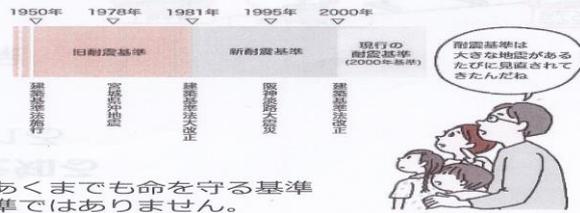
まずは、**災害時をイメージ**すること。そして、いろいろなことを**知る**ことから防災や減災は始まります。

家族で災害時をイメージしてみる、地域で災害時をイメージしてみる…そして、イメージした被害を念頭に置きながら防災/減災に必要な知識やテクニックを知っていくことが重要です。

## 知る

### 自宅の耐震性を知る

- ・1981年（昭和56年）6月1日以後の建物かどうか
- ・2000年（平成12年）以後の建物かどうか



なお、耐震基準は、あくまでも命を守る基準であり、家を守る基準ではありません。

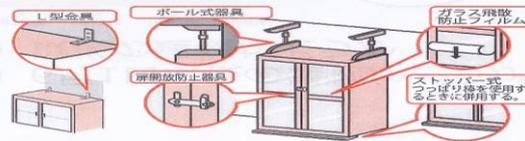
33

## 知る

### 命を守る手段を知る

- ・家具から離れる
- ・頭を守る
- ・初期消火
- ・脱出口の確保
- ・...

いろいろありますが**家具の転倒防止**が命を守る一番の手段だと思われれます。



(みんなとのつながりを持とう)

## 支援団体との「連携」へ向けた提案

### みなさんの地域の**みんな**とつながってください

- 地域の現状(災害時の地域も)を地域の**みんな**で把握してください
- 地域で予想される災害時の課題を地域の**みんな**で共有してください
- 地域の防災力(地域力)を地域の**みんな**で見直してください
- そして災害によってなくなる命を地域の**みんな**で守ってください

くらしを守り、命を守る為に、地域の「みんな」とつながって下さい。

## みんなとは!?

みなさんの地域にいる様々なセクターの方です

- ・住民組織：自治会/町会、自主防災組織、老人会、子ども会、他
- ・学校関係者：学校長、教職員、PTA、教育委員会、他
- ・行政職員：防災課だけでなく、福祉課だけでなく、建築課、土木課、まちづくり課、他
- ・事業者組織：地元企業、商店会、商工会、青年会議所、労働組合、生活協同組合、他
- ・宗教系組織：地元教会、地元寺院
- ・NPO・NGO：社会福祉協議会をはじめ、地域にある防災・災害に限らず、様々なテーマのNPO/NGO ボランティア団体

地域の「みんな」とは

41



東大和市社会福祉協議会主催

見守り・声かけ活動協力員研修会

# 災害と高齢者

講師：福田 信章 氏  
(災害協働サポート東京事務局長)



令和7年 **3月4日(火)**

午後2時00分から午後3時50分まで  
(開場：午後1時30分)

会場	中央公民館ホール
定員	200名
参加費	無料

## 「災害時と高齢者」講演のポイント

今回は、関心が高まっている防災に着目し、災害時における高齢者支援や日頃の備えについて、各地の被災現場で支援活動をしてこられた福田氏に講演していただきます。あわせて、地域のつながりや支え合いの重要性やマンション・集合住宅の住民が抱える不安、本活動の協力員としてできることにも言及していただき、今後の活動に活かしていただく機会とします。

### 主な内容

#### ① 講演

災害時において自分たちができる支援とは何か。また、平常の活動によって築いてきた「つながり」がどのように生きてくるのかについて話をお伺いします。

#### ② 余興

人気漫才コンビの林家まる子・カレー子さんを招き、楽しく愉快的な母娘のおしゃべり漫才で皆さんに笑いをお届けします。

### 見守り・声かけ活動とは？

高齢者が安心して暮らせるよう、身近な近隣の方々がボランティアとしてお宅を訪問して、声かけをしたり、さりげなく見守りを行います。



【申し込み】

**東大和市社会福祉協議会**

**☎042-564-0012**

※見守り・声かけ活動協力員は地区委員会を通じお申し込みください。